

渡邊

JOCA

体育教育 50:20 より

おはようございます。まず青年海外協力協会といいますのは 23 年前に協力隊の OB が集まってできた組織なんです。それで現在は JICA のボランティア事業を支援していると、それで皆さんの募集説明会等に行ったときのスタッフは当会の人間でこれから多分明日から駒ヶ根と二本松訓練所に行かれると思いますけれども訓練をしているスタッフも当会の者です。それと皆さん現地に行かれるとですね、ボランティア調整員も一部当会から派遣されている人間であります。それで帰国後はですね、皆さんたちが地域に戻った時に各 JICA のセンターの中にも開発教育支援という形で内のスタッフが入っていて皆さんたちと連携を取りながら現地の皆さんの活動を帰国後の社会還元につなげていくというような形で、ですんで皆さんたち募集から帰国してからも一貫したサークルの中で皆さんたちと一緒にやっていくということでぜひ青年海外協力協会と一緒に活動していただければと思います。今回はうちの全国組織となっている OB 会の体育とスポーツの会と連携を取ってですね今回の現職教員の体育分野を現地の調査をしながら皆さんたちに報告していくという形になっております。

こんにちは私、川口と申します。私どもですね、マラウイに体育隊員として行っておりました。それでこの夏帰ってきまして青年海外協力協会の方で働いております。私たち隊員にとってみると現職の先生方というのはすごく頼りになるというか頼もしい存在で隊員からいろいろと質問されることもあると思いますのでどうぞよろしく申し上げます。

それでは今年度の実施報告をさせていただきます。今年度の課題は協力隊派遣現職教員体育のサポートを通じて国際教育協力の質の向上ということでした。体育分野のサポートということですが、体育隊員で行かれる方へのサポートではなく体育分野のサポートということを考えております。なぜかといいますと実際に皆さんが行かれるのは学校に配属されると思うんです。理数科の方も、養護の方もですね、それで学校に配属されますと、学校の方からは要請書に無かったことがどんどん頼まれるんですね。その中の一つとして必ずクラブ活動とかですね、課外活動をしてくれと言われるんですね。何も教えるものがないよと思っても向こうの人たちは日本の男性は全員空手マスターと思っているんですね。ジャッキーチェンは友達かって絶対聞かれるんですね。友達じゃないんですけど。そういうふうに分かれますので、体育分野のサポートを考えております。本年度の実施内容といたしましてはまずニーズ調査を行いました。それにもなつて支援体制を構築いたしました。そして現地調査ですね。ザンビア・マラウイの方を現地調査を行いました。支援体制構築までのプロセスです。まず隊員活動報告書の分析を行いました。これまで体育・スポーツ隊員 807 名行っております。隊員活動報告書の方は現職教員の方の活動報告書を中心に分析いたしました。そして帰国隊員を対象とした質問紙調査、こちらはですね、体

育・スポーツのOB・OGを対象に行いました。807名ですね、これまで帰国しておりますけれども、アンケート結果のほうは後ろの方に載せておりますのでそちらでご確認いただければと思います。それと帰国派遣現職教員による事例報告ですね、実際に現職の方がですね、帰ってこられましてヒヤリング調査をJICA広尾の方で行いまして、主にこの3点から支援体制を構築しました。これは現職の先生方の写真となります。これはニジェールの小林先生ですね、この写真を見て何かお気づきになることありますでしょうか。私どもからみれば当たり前なんですけれども、先生方からすればなんで体操服を着てないの、なんで靴を履いていないの、ということをおられるかもしれませんが、基本的に子どもたちは裸足かパタパタというサンダルを履いております。それで体操服というのはないですね、基本的に。運動する時は普通の服で行います。もちろんですね、先生はバレーボールを教えているんですけれども、バレーのコートとかですね、線ももちろんございません。そのような中でやっていかななくてはなりません。これはですね、カンボジアの中山先生ですね、これもお気づきになりますように裸足ですね、子どもたちは。基本的に、私もアフリカ行っていたんですけれども、アジアでも裸足だと子どもたちは、ということなんです。授業が始まって一番最初にやることはグラウンドに針とかガラスとか落ちていないかなと見るの最初にしなくてはいけません。やっぱり。あまり向こうペットボトルとか無いんでビンなんです。大人とか酔っ払って、ビンとかを割ってそのままにしておくんで、まずグラウンドに何も落ちていないかなってことをいちいち確認しておりました。他にこの写真を見て何かお気づきになることありますか。裸の子がいますよね、なんで裸なのか分かりますか。すごいさすが先生ですね、なんで裸かということですね、カンボジアでもそうですし、多くのアフリカの国でもそうなんですけれども、何かゲームをしようとなると子どもたちは一方のチームが服を脱ぐんです。それでチーム分けをしようとするわけです。私もこのやり方でいいのかと、思ってた、じゃあお前ら裸というふうにしてたんですけれどもこれをすると何か問題が起きるのお分かりになりますか。あの、女の子嫌がるんですね。女の子が嫌がるんです。なので私の場合、鉢巻きとかですね、使ってやっておりました。そうするとアメリカのボランティアとかイギリスのボランティアもですね、真似をしてですね、結構鉢巻きとかはマラウィでは広がりました。これはサモアの浅井先生です。先生の要請内容は競技力の向上ということをお願いされたそうですけれども、実際は先生はただ競技力を上げただけでは仕方ないのではないのか、もっと運動を通じてルールを教えることとか、協調性を教えること、そういうことにすごく尽力されたそうです。子どもたち、日本でもそうなんですけれども、勝ち負けということだけにこだわってしまうんですね。なので運動を通じて勝ち負けだけじゃないよということ、それに先生、すごく御尽力されたとおっしゃってました。つぎ、モルジブの白井先生です。白井先生どこにいらっしゃるのか分かりますか。白井先生、この方です。一見すると先生どこにいらっしゃるかわからないと思うんですけれども、皆さんも今は日本人という感じなんですけれども任国に行かれてですね、1年とか1年半経ちますと、現地の方と変わらなくなります。だ

んだんと汚くなりますし、黒くなりますし、着ている物も、笑い方とか雰囲気とかですね、向こうの方とすごく似てくるわけです。何故かというとどんどん向こうに溶け込もう溶け込もうとするわけですね。実際先生なんか完全に溶け込んでいるわけです。この写真からだけでも先生本当にいい活動されていたんだなということが分かると思うんです。先生はバドミントンを教えに行かれていたんですけれども、これはバドミントンの写真だそうなんですけれども、モルジブは実際健康ブームだったそうで、ジョギングとかウォーキングを周囲の人たちですね、自分の家の回りの地域の人たちと一緒にやってたそうです。これから訓練所で皆様、すごく言われるのが安全だけにはすごく留意してくださいと、事故とか事件にはあわないでくださいということをしつこいくらい言われると思いますけれども。私としては一番予防策ですね、何が大事かと思うとですね、周囲の人たちですね、仲良くすること、家の周りの人たちとですね、仲良くしておくこと、すごく大切だと思います。その方法の1つとして子どもたちと遊ぶことということがすごくこれ役に立つそうです。なのでぜひ子どもたちと皆さん遊んでください。

これ、私の写真です、笛をもっているのは。こういうふうですね、鉢巻きとかを用意してやっておりました。そうすると女性の方もいらっしゃるの分かりますね、なかなかアフリカとかでは女性は運動に参加してはいけないというような風習が残っているんですけれども、こういうふうには鉢巻きとか用意して裸になんなくてもいいとか、この人ちょっと暑くて裸になっていますけれどもそういうふうにするとうどん女性も参加してくれると。これは何をしているところか分かりますか。これ、綱引きをやろうと思ったんです。綱引きをやろうと思ったんですけれども、綱が無いわけです。綱が無いのでどうしたらいいんだらうとマラウィの人たちと考えると、マラウィで手に入るものは何だと、土か木の棒ぐらいだなど、それで木の棒ですね。木の棒を使って綱引きの代わりにしました。これ、すごく盛り上がるんです。勝ったチームはこの後3分ぐらい喜ぶんです。

で、次に現地調査ですね。ザンビア・マラウィに行きました。調査の目的ですね、体育概要の調査、体育関係者とのネットワーク構築、活動風景撮影ということで行いました。体育概要、調査におきましてはニーズ調査の方でその国のカリキュラムやシラバスが先に分かっていたらいいなということだったのでこのようにシラバスとか持って帰ってきましたので、本日先生方にフィードバックしたいと思っています。で体育関係者とのネットワークですね、これも構築してまいりました。

続きまして活動風景撮影です。これはザンビアの小学校隊員ですね、この方小学校なんですけれども、体育の授業しか持っていないんですね。週に37コマ、体育の授業を持っているそうです。もうザンビア人みたいな感じですよ。これも道具を使わない単純な遊びなんですけれども、真ん中の子はこう、棒になるんです、で両端の人が押し合う、すごくシンプルなんですけど、最初は絶対うまくいかないです。転ぶのが怖いんですね。あいう体を預けるのが。どうしてもこう足がグッとなっちゃうんですけど。だんだんと信頼関係とかですね、協力ができてくるとこれができるようになるわけですね。こういう簡単な

ものでもすごく喜びます。これは体育隊員です。ザンビアの体育隊員。現在いらっしゃる体育隊員ですね。これはですね、小学校に行かれて体育の授業をやっているところですけども、体育の先生と隊員が手をつないでその下をリンボーダンスのように子供たちがぐぐっていくという、これもすごい簡単なんですけれどもこれも子供たちがもう発狂するほどにワクワクしてすごいうれしそうな顔で待ってますよね。こういう簡単なでも子供たちはすごく喜びます。柔軟性を養うということが目的ですね。現在ですね、協力隊の活動派ですね、ここの活動はもちろんありますけれども、それがだんだんとですね、グループとかですね、同じチームを作って活動を行うというふうになってきております。これマラウイの例なんですけれども、マラウイ、健康増進ということで1つ活動課題に上げていまして、それに現在これだけの隊員がですね、連携して行っているわけですね。ええこれ、エアロビックスの模様ですけども体育隊員はこの方1人だけですね、他は違う職種の方なんですけれどもエアロビックスを行っています。あのう、アフリカって意外かと思われるかもしれませんがけれども太った方多いんですね。なんでこれは子供対象なんですけれども、子どもの頃から運動するという、体を動かすということを広めていこうということですね。音楽に合わせて踊るのがすごく得意なので、エアロビックスはすごく適していると思いますね。これはエイズのドラマをしているところですね。このVCTというところがエイズの検査をするところですね。このVCTに行くこと自体がマラウイではタブーのようなものがありますので、そうじゃないというふうに劇を行っているわけですね。これも青少年とエイズ対策ですね。みんなで協力して行っているわけです。これは長縄です。(—ビデオの音—) ええ長縄を体育隊員を中心としまして、ええみんなで長縄広めていこうとああいう短い縄ならありますので広まるんじゃないかということでやっております。ザンビアの場合も同様でして、例えばですね、こちらですね、特別体育の充実ということで体育隊員が養護隊員の活動先に出かけていって一緒に活動を行うということを行っています。(—ビデオの音—) でザンビア体育は小学校の方が中心になってやっております。これはワークショップを行っているところですね。各地の大学とか小学校でワークショップを行っています。LESSンプランを教えていますね。まだいろいろな映像あるんですけども時間の関係でこれぐらいにします。また興味のある方は個別にでも。これはザンビアの人たちがこういう運動ができるんじゃないのかと考えてやってるわけですね。運動神経はすごくいいんです。運動神経はいいんですけど経験をしたことがないんで、いろんな動作ができないんですね。あのう日本の皆さんは右肩を前に回して、左肩を後ろに回すっていうことを全員同時にできるんですけども、アフリカの方はできないんですね。まだ1人も私会ったことないんですけども。経験をしてないというだけなんです。運動神経はすごくいいです。活動中の隊員に対するサポートですね。今年度はメールでいろんな要請来ましたのでそれに対して即座に対応いたしました。あとですね、日本に帰られてから物品支援をしたいということでそれは世界の笑顔のためにというプロジェクトがありますので、そちらを紹介して物品支援させていただきました。本年度ですね、支援計画はこのようになってお

ります。派遣前の応募相談です。任国の体育事情調査・オリエンテーションの実施、こういうの JOCA にスペシャリストがおりますので、派遣中は本年度と同様ですね、支援要請に対応、現地調査・資料収集、で帰国後もオリエンテーションの実施、国際理解教育に対するサポート、こういうのをやっていこうと思います。どうもありがとうございました。

Q あのう隊員の支援に関してのことなんですけれども、下にこういうものが写ってた…  
あともう1つは、こちらから要望しないとそういう情報は得られないのかという

「国際協カイニシアチブ」  
青年海外協力隊派遣現職教員＜体育＞  
サポート平成18年度実施報告

(社)青年海外協力協会

川口 純

# 平成18年度課題実施課題・内容

課題一協力隊派遣現職教員(体育)のサポート

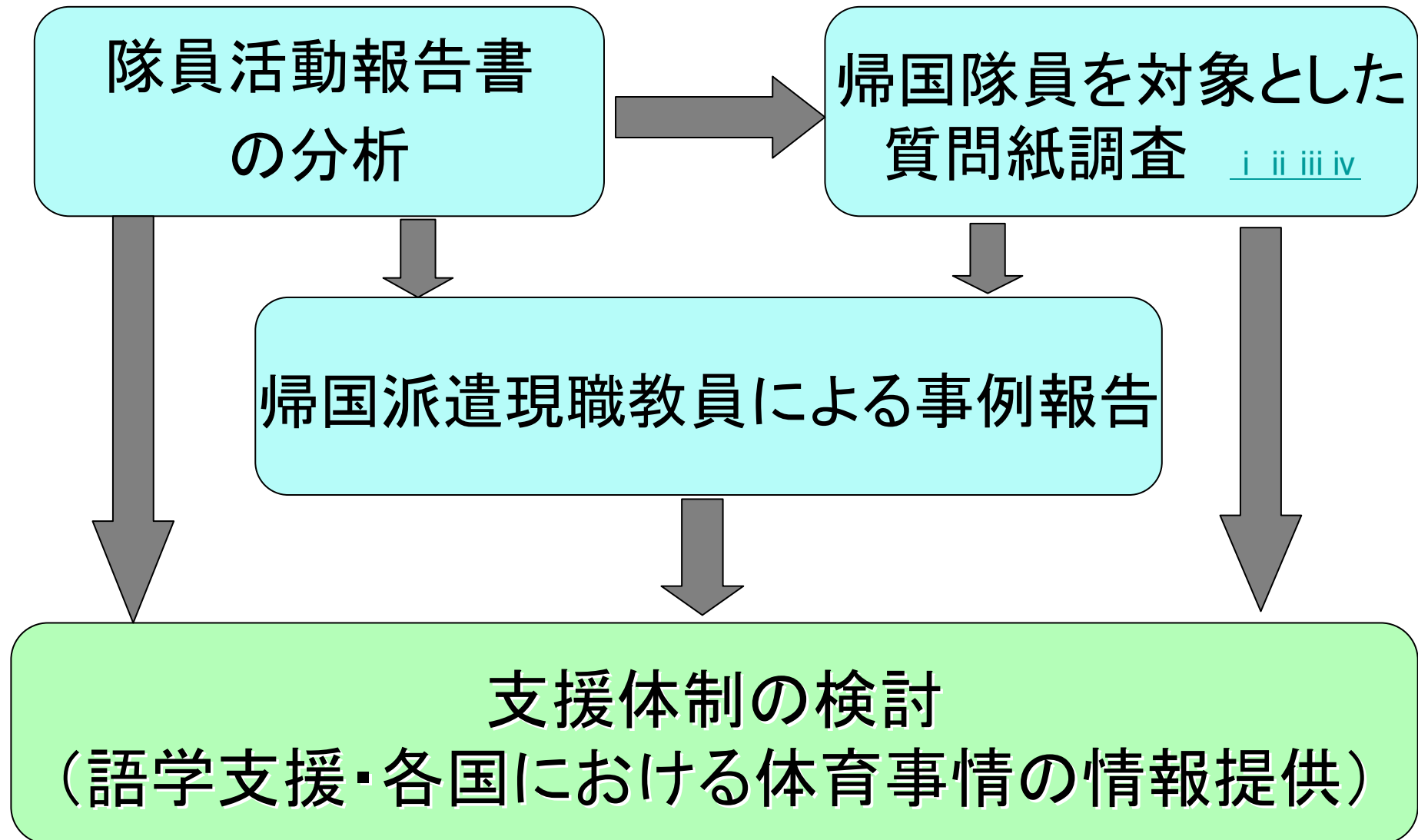


国際教育協力の質の向上

## 実施内容

- ニーズ調査
- 支援体制の構築
- 現地調査(ザンビア・マラウイ)

# 支援体制構築までのプロセス















## 現地調査(ザンビア・マラウイ)

- 体育概要調査
- 体育関係者とのネットワーク構築
- 活動風景撮影

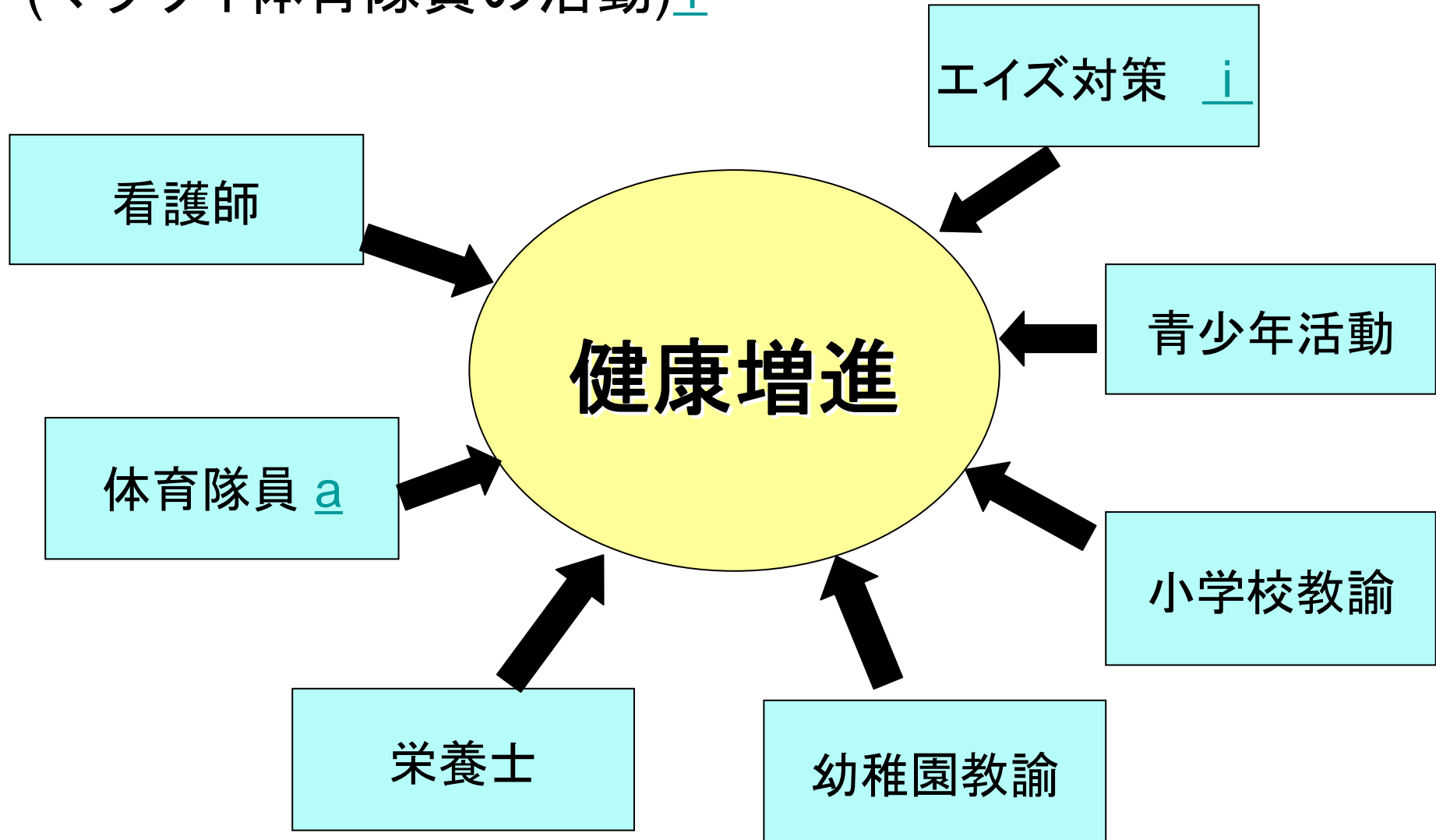




2006 10 10



# 同じ課題に対して様々な職種の隊員が連携 (マラウイ体育隊員の活動)1

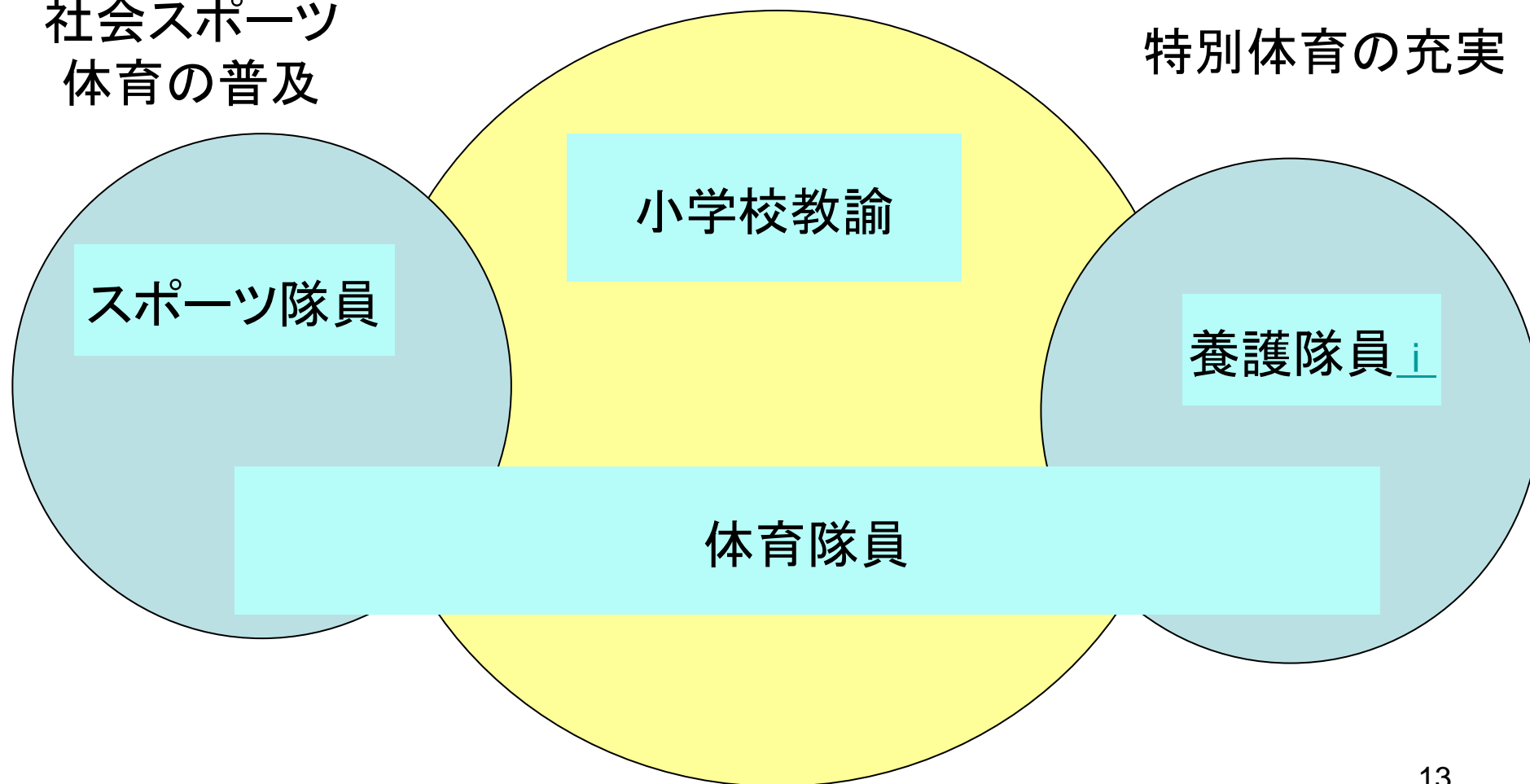


# 同じ課題に対して様々な職種の隊員が連携 (ザンビア体育隊員の活動)

## 体育の普及 ii

社会スポーツ  
体育の普及

特別体育の充実



## 活動中の隊員に対するサポート

- メールにて対応
- 「世界の笑顔のために」活用

# 平成19年度の支援計画

- ＜派遣前＞
  - ・応募相談 <sup>1</sup>
  - ・任国の体育事情調査
  - ・オリエンテーションの実施
- ＜派遣中＞
  - ・支援要請に対応
  - ・現地調査
  - ・資料収集
- ＜帰国後＞
  - ・オリエンテーションの実施
  - ・国際理解教育に対するサポート